

令和2年度第1回社会教育委員会議事録

第1回社会教育委員会議概要

○開催日時 令和2年6月1日（月）14時00分～16時00分

○開催場所 舞鶴市役所 中会議室

○出席委員 江上委員、大泉委員、龜井委員、川上委員、田中委員、谷口委員、畠中委員、福原委員、藤村委員

計9名

○事務局等 舞鶴市教育長奥水教育長 市民文化環境部西嶋部長 人権啓発・地域づくり室藤崎室長 文化スポーツ室福本室長 地域づくり支援課飯田課長、公民館担当村尾課長 人権啓発推進課山本課長 文化振興課左織課長 スポーツ振興課神社課長 図書館課平野課長 生涯学習支援係佐藤係長、秋本

1. 委嘱状交付

2. 挨拶 [教育長]

3. 自己紹介

今期初めての会議のため委員、事務局の紹介

4. 会長及び副会長選出

5. 報告

(1) 令和2年度中丹地区社会教育委員連絡協議会日程等について

→飯田課長から説明

(2) 令和2年度生涯学習関連の主な事業計画について

→飯田課長から説明

質問・意見なし

(休憩)

6. 議題

(1) 令和2年度社会教育関係団体への補助金の交付について

→飯田課長より説明

福原 意見がないので補助金の交付を承認する。

(2) 第 31 期社会教育委員会議検討テーマについて

事務局から説明

福原 事務局の説明で質問はないか。

大泉 この議題を一般的に考えていくのか、コロナ禍の現状をふまえて議論していくのか。

現在はコロナ等で新たな困難がでてきているのでそれを含めて議論するのか。

事務局はどのように考えているのか。

佐藤 コロナ後の社会についても議論されてきているので、時代の変化に対応できる社会教育の在り方を考えなければいけない。今後コロナと共存するために、人の関係も多様化していくと思うので、そのあたりもあわせて考えていきたい。

福原 ほかに意見がないので、今期のテーマは「各世代がつながる地域づくり～社会の変化に対応する社会教育の仕組み～」と決定する。

この議題を考えるのに拠点の現状について知る必要がある。拠点分析を江上議員より報告。

江上 今期は、前期の議論をふまえて、具体的にどんなことをしていけないかを議論していくと認識している。そのため地域の課題をみる必要がある。

今回は、公民館の表彰、最優秀賞からみた福知山市の地域の課題を知るために公民館職員にアンケートを実施した。

課題は引き継ぐ人材がいない、関心が低い、事業内容がマンネリ化していること。

人口減少している中で、今までどおりではいけない。

昨年度の優良公民館が実施していることは、世代間交流。子どもと大人、子供と高齢者と子育て世代など世代の交流がキーワードである。

現状の評価のポイントは多世代で交流できているか、一団体だけで終わらず他団体と交流できているかであると考えた。

公民館は、サードプレス、職場と家以外で集える場所を目指す。

公民館事業は、さまざまな場所で行い、同じ地域で世代間交流するのではなく、いろいろな場所で交流する点が評価につながる。

例えば、宮城県の人口3万人の地域。この地域の評価のポイントは世代間交流で中学生から25歳のなかなか意見を聞けない世代を中心に集めたところ。若者が主催者側、働き世代が講師役となり、若者世代も言いなりになるのではなく、情報を発信するなど、特に若者をどう活用するのが大事である。

他に、大学と地域が連携する世代間交流。これは、学生とイベントするだけではない、地域とデジタルで連携する。地域の映像資料を集めて情報を発信する。一緒に資料を集めるので、地域について学ぶことができる。これは福知山公立大学でやってみたいと考えている。

福原 質問はありますか。

福原 たくさんのデータは大学の授業の一環でとったのか。

江上 福知山市の社会教育委員会で調査したもの。

福原 福知山市はこの結果をどのように活用するかはこれからですか。

江上 これから第1回会議で話し合う予定。

福知山市の社会教育委員会で質問を作ったが、しっかり議論できず抽象的なものになってしまし

まった。

福原 質問する内容は福知山市の社会教育委員会できたのか。

江上 福知山市の事務局側が頑張ってくれたが、アンケートが答えにくいところがある。

谷口 質問の量は多いのか。

江上 a4一枚で自由記述も多いわけじゃない。

谷口 社会教育委員さん同士で、課題の照らし合わせ等があったか。

江上 昨年度の提言書は多少話したが、議論はできていない。

アンケートをし、事務局側でデータの集計をとったが、間違っているところもあって、私の方で作り直した。調査は何となくではなくしっかり決めてから実施しないといけないと感じた。

谷口 丸く結果を出しているのは意味あるのか。

江上 丸の形ではなく、大きさが重要。大きいほうがたくさんその言葉が使われているという意味。

谷口 公民館という言葉がいっぱい出ているということか。

江上 文脈で公民館という言葉が多く出ているが、どのように解釈するかは元データをみないとけない。

大泉 アンケートから、課題は理解できるが今後の在り方など、今後どうするべきなのかこの表からわかるのか。

江上 この表からはわからない。アンケートの質問が課題はなんですかというものだったので、この結果をみて何か対策しないとけないぐらいしかわからない。アンケートは現状をみるためのもので、この後どうするかはアイデアの話になる。

大泉 先生はどうしたら良いと思いますか。

江上 うまくしている事例を探してどうしたら良いか考えるしかない。こうなってくると、こうしたら良いって軽々しく言えないが、システムとして自然とそこにいる状況をどうつくるかが大切だと思う。

例えば、企業が講師役を出し、若い人に参加してもらうなど。

工夫より辞める勇気が必要だと思う。

福原 ゼロベースに考えないと先が見えないということか。前年踏襲になると同じことの繰り返しになるのでそれをやめる勇気を誰が実現できるのか。

江上 やめる勇気を知る、そういう意味では調査も役だったのではないか。

福原 こんな意見があるからこのようにしましょうはやりやすいので、調査したほうが今後やりやすいと思う。

(3) その他について

事務局から説明

川上 今回いろいろ話を聞いて、今後の流れと、これから委員は何を考えていけばよいのか理解できなかった。

佐藤 基本的には去年の建議書の理想から、実際に計画を実現できるようにするにはどうすればよいのか、どういう仕組みが必要でそこに関係する方とどんなことが実行できるのかなどを考える。

福原 次回の夜久野公民館の話聞いてから、徐々に頭をきりかえていただければよい。
前はグループワーク形式だったので切り替えが難しいと思いますが、徐々にやっていきたい。

佐藤 川上さんはスポーツの実践例から意見をだしていただいたりしてもらえばよい。

江上 幅広い世代を巻き込むには自分の分野でどうしたらよいのか考えるのが出発点ではないか。

谷口 2年後には具体的なことを出せるようにすればよいので、インプットなどしながら議論していきたい。例えば、スライドの P.14 をみながら意見等を出していけないか。インプット 2 回してアウトプットのように、徐々にできればよい。
共通の課題を学びあう中で、フランクに気軽に議論をかさねていけないかなと考えている。

畠中 今日は顔合わせで、今後こんな雰囲気を進めるなど知ってもらえればよい。

福原 今回は、あえて全員の意見聞かなかった。

畠中 今回組織がかわり、人権推進室が加わっているのに今回のスライドでは人権の言葉が少なかったので、今後無理に社会教育にどのようにいれていくのかなという課題は感じた。

7. その他

- (1) 中丹地区社会教育委員会連絡協議会総会について
- (2) 京都府社会教育委員連絡協議会総会について
- (3) 次回会議日程について
→佐藤係長より説明